



訪問の趣旨を説明する坂本紀一議長(写真中央)と議員



東京電力株式会社
取締役副社長 鼓 紀 男 氏

東京電力(株)本店を訪問

10月4日 広野火力6号機の早期着工を求め議員 11人が上京



写真左から、新妻立地部長、半田立地地域部長、鼓副社長
相澤火力部長、渡辺技術部長、益子広野火力発電所副所長

10月4日に議員11人で東京電力(株)本店を訪問しました。

これは、今年3月に発表された電力供給計画により、運転開始がこれまでの平成22年度から平成26年度に先送りされた広野火力6号機の建設について、早期着工を求めたものです。

会議の冒頭で坂本紀一議長が電力立地町と立地企業との間でこれまで築き上げてきた信頼関係の維持継続を訴えると、他の議員からも6号機の早期着工はもとより、関連企業の誘致や若者の雇用の場の提供、地元商工業への配慮など、「今後も共存共栄を求めるといった意見が相次ぎました。

これに対し、東京電力の鼓紀男取締役副社長は、広野火力6号機の運転開始時期の延長について、5・6号機を計画した10年ほど前と比べ、電力需要の伸びが相当低迷していること、電力小売の自由化により得意先を他の会社に奪われるといったエネルギー間競争が厳しくなっていることなどを説明し、一方で、今年7月に発生した新潟県中越沖地震にともなう柏崎刈羽原子力発電所の全号機停止という状況から、貴重な石炭電源である広野火力6号機については、現在、平成21年度着工に向けて社内調整を進めていることを明らかにしました。



東京電力(株)広野火力発電所

広野火力6号機は
21年度着工
に向けて調整中